

## 令和6年度 学校評価アンケートの分析

### 1 学校評価アンケートの結果

アンケートの調査結果は、別添資料1~3のとおりです。

今年度、「分からない」の選択肢を入れてアンケートをするよう刈谷市教育委員会から通知がありました。本校の今までのアンケートでは、「分からない」の選択肢を入れずに行っていたため、昨年度の結果と比較すると数値が大きく変わっています。ご承知おきください。

### 2 児童アンケート結果分析

(1) 「②友達となかよくしている」という質問に対して「あてはまる」「おおむねあてはまる」と回答している児童が97.2%であることから、相手のことを考えながら、学校生活を送っている児童が多いと言えます。このことは、保護者アンケート「②子どもたちは、自分のことも友達のこと大切だと思っていると感じる97.6%」からも言えると考えます。

(2) 「⑤学校行事や当番活動、係活動、委員会活動にしっかり取り組めた92.4%」「⑥学校の決まりや交通ルール、授業の始まりの時間などをしっかりと守ることができた89.3%」という結果から、自分の役割を果たそうと責任をもって活動に取り組んでいる児童が多いと考えます。このことは保護者アンケート「⑤子どもたちは、学校行事や委員会、係の活動に意欲的に取り組んでいると思う95.7%」「⑥子どもたちは、時間や学校のきまり、交通ルールなどを守って生活できていると思う95.2%」からも言えると考えます。

(3) 「⑧体育の授業や長放課に外遊びをするなど、進んで体を動かして、体力を高めようとした77.8%」は、昨年度より9.4%下がっています。また、20%以上の子が、進んで体を動かして体力を高めようとするのができなかつたと感じています。子どもたちが、体育の授業や長放課で十分に体を動かすよう、指導や声かけをしていきます。

(4) 「③自分にはよいところがあると思う78.6%」「⑨授業では友達の発言をよく聞き、自分の考えを進んで発言しようと努力できた73.7%」は、80%に到達せず、昨年度より2~3ポイント下がっています。また、どちらの項目でも、14%以上の子が自己肯定感や自己有用感を感じられず、自信がない状態にあると考えられます。子どもたちが互いに認め合い、自分に自信をもって活動できるよう、一人一人の子どもに目を配り、一人一人のよいところを認める支援を積極的に行っていきます。

(5) 「①学校に来るのが楽しい85.9%」「⑩授業は楽しく、内容がよく分かる86.6%」「⑪先生は、自分のよいところ、がんばったことを認めてくれる85.2%」「⑫困ったときに相談できる先生がいる78.8%」は、昨年度より3~6ポイント下がっています。保護者アンケート「⑩教職員は、授業において子どもたちが分かりやすい指導を行っていると思う91.4%」「⑪教職員は、子どもたちのよいところ、努力したことを認めていると思う90.9%」「⑫教職員は、子どもたちにとって安心して相談できる相手であると思う83.7%」の結果も昨年度より下がっています。今まで以上に子どもたちに寄り添い、子どもたちのよいところを認めていきたいと思えます。

(6) 「④自分から進んであいさつをしたり、周りの人に「ありがとう」を伝えたりしている87.1%」は、昨年度よりポイントが2ポイント下がっています。しかし、保護者アンケート「④子どもたちは、自分から進んであいさつをしたり、周りの人に「ありがとう」を伝えたりしていると思う88.8%」は昨年度より3ポイント、教職員アンケート「④児童は、自分から進んであいさつをしたり、周りの人に「ありがとう」を伝えたりしている84.4%」は昨年度より9ポイント上昇しています。校内では、笑顔で相手の目を見てあいさつするだけでなく、相手より先に元気よくあいさつできる子が増えてきています。今後も、気持ちのよいあいさつができるように指導していきます。

(7)「⑦食まるファイブを意識するなどして、バランスのとれた食事を心がけ、健康に気を付けることができた77.5%」の結果も昨年度より下がっています。これからも、機会あるごとに、健康な生活についての指導をしていくように努めていきたいと思えます。

### 3 保護者アンケート結果分析

(1)「⑦子どもたちは、栄養バランスを意識して家庭の食事や給食を食べるなど、健康に気を付けていると思う」以外の全ての項目において、「あてはまる」「ほぼあてはまる」という回答が80.0%以上であり、児童の学校生活におおむね満足していることがうかがえます。

(2)「①子どもたちは、毎日楽しく学校生活を送っていると思う95.2%」「③子どもたちは、「自分にはよいところがある」と思っていると感じる95.2%」「⑨子どもたちは、授業で意欲的に活動していると思う91.2%」は、昨年度の結果と同程度の値か上昇しており、学校の取組を保護者が肯定的に捉えていると考えられます。

### 4 教職員アンケート結果分析

(1)「③児童は、自分にはよいところがあると思っていると感じる93.8%」「⑩児童のよいところ、がんばったことを認めている96.9%」の結果から、子どもたちを認めるよう意識している教職員が増えていると考えられます。しかし、子どもたち自身の意識と少し離れているので、子どもたちが自分のよさを感じ、自己肯定感や自己有用感を高めることができるよう、今後も支援していきます。

(2)「⑦児童が食まるファイブを意識するなど、バランスのよい食生活をして、健康に気を付けるように指導している81.3%」「⑧児童の体力向上のために、体育の授業や長放課に外遊びをするなど、体を動かす機会の確保に努めている96.9%」の結果は、昨年度より10%以上上昇しています。しかし、子どもや保護者の意識と離れているので、今まで以上に、自分の体づくりや栄養バランスについて考えていく機会を増やしていくよう心がけていきます。

### 5 来年度に向けての改善策

(1)子どもたちが互いに認め合い、自分に自信をもって活動できるよう、一人一人の子どもに目を配り、一人一人のよいところを認める支援を積極的に行っていきます。

(2)今後も、児童、保護者にとって安心して相談しやすい教員集団となるため、日頃から対話を大切に、よい関係を築いて相談しやすい雰囲気醸成していきます。

(3)健康な生活については、栄養バランスについて考えていく機会を増やしたり、体育の授業や長放課で十分に体を動かすように指導や声かけをしたりしていくよう心がけていきますので、家庭でも働きかけていただければと思います。

### 6 第三者評価(学校運営協議会委員からの提言)

(1)児童の結果を見ると、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」とよい評価ができていますので、子どもたちの自己肯定感や自己有用感は育っていると思う。さらに、子どもたちに、できていることを伝えていき、自信がもてるようにしてほしい。

(2)教職員の結果が上昇しているのは、先生たちも自己肯定感が上がっているのだと考えられ、とても良いことである。

(3)子どもたちは、食まるファイブの話の家でもしている。また、家では食べない野菜を学校では食べていると聞いているので、子どもたちは栄養バランスについて意識していると思う。